

平成筑豊鉄道について 楽しみながら学ぼう！

北九州市立大学 地域創生学群 小林ゼミ
平成筑豊鉄道 株式会社
株式会社 クリエイティブジャパン



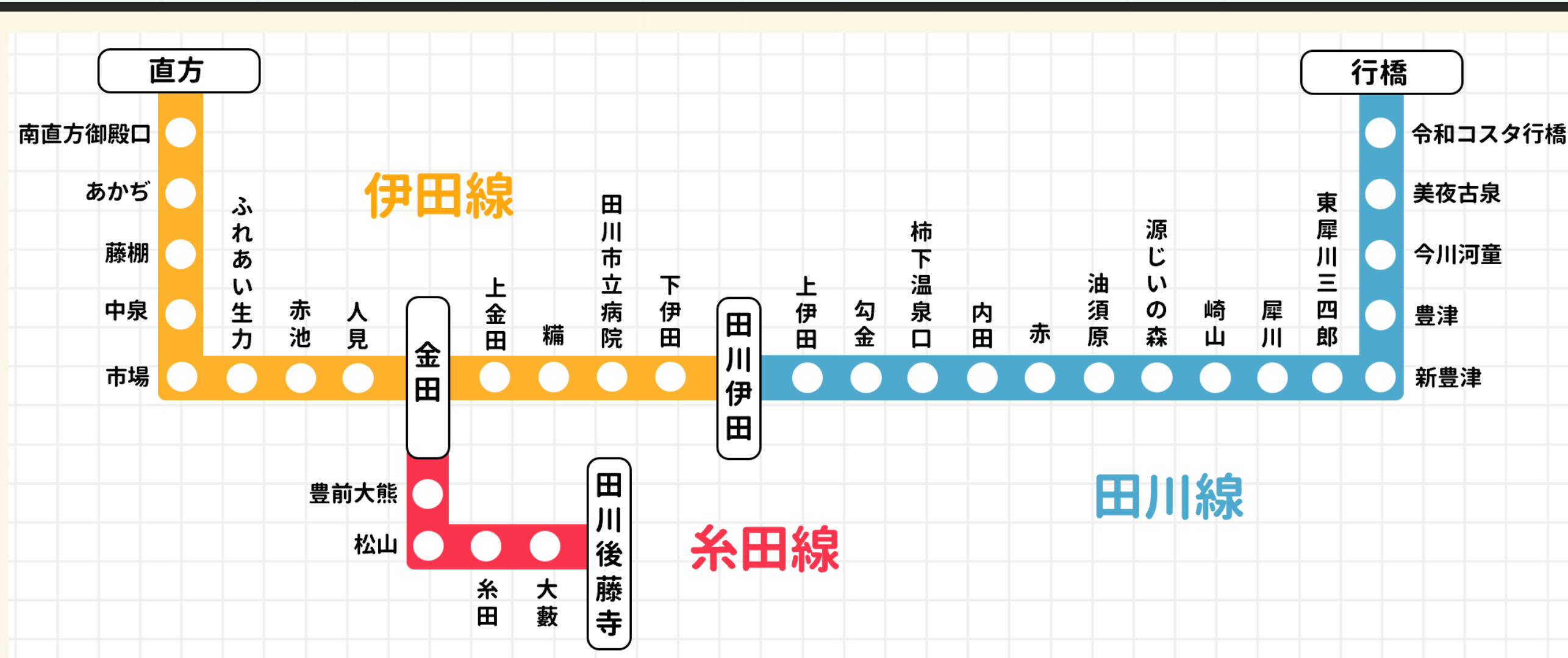
ちくまるくん

1. 平成筑豊鉄道とは？

福岡県の筑豊地域を東西に結ぶ、全長51.3km、計36駅のローカル鉄道。
通勤・通学をはじめとする日常的な移動手段として重要な役割を担っている。

背景

近年は、沿線地域の衰退により利用者は減少しており、車社会の影響から平成筑豊鉄道に対して興味関心の低い人が多くなっている。そのため、鉄道を核とした地域資源の再発見や地域住民と鉄道との新たな関係づくりが求められている。



平成筑豊鉄道や沿線地域に興味・関心をもってもらえるような活動を行う必要がある！

2. プロジェクト概要

「楽しさ」×「学び」



平成筑豊鉄道について「楽しみながら学べる」コンテンツを開発し、様々な機会を通して地域の子どもから高齢者まで幅広い世代に楽しんでもらい、楽しむ中で興味関心を高め、鉄道利用者の増加だけでなく沿線地域の活性化及び沿線地域の方々のシビックプライドの醸成を目指している。

活動内容

①コンテンツの作成

本コンテンツはいつでも・どこでも・誰でも・直感的に楽しめるデザインを意識し、鉄道や沿線の要素を日常生活の遊びや学びの中に取り入れた工夫をしている。ぬりえや神経衰弱など、すでに多くの人に親しまれているコンテンツに着目し、子どもから高齢者まで、幅広い年代に楽しんでもらうことができる。

②イベントの実施

作成したコンテンツは、地域イベントや鉄道イベントなどで出展しており、実際に、地域の方々に手に取ってもらう機会を創出している。イベントを通してコンテンツを楽しんでもらうことで、平成筑豊鉄道や沿線地域への親しみを育み、楽しさから関心へ、関心から行動へつなげることを目指している。

3. コンテンツについて

ポイント

◎日常的に遊んだり、学んだりするコンテンツに平成筑豊鉄道や沿線の要素を加えているため、気軽に、また持続的に日常生活の中に取り入れてもらえる

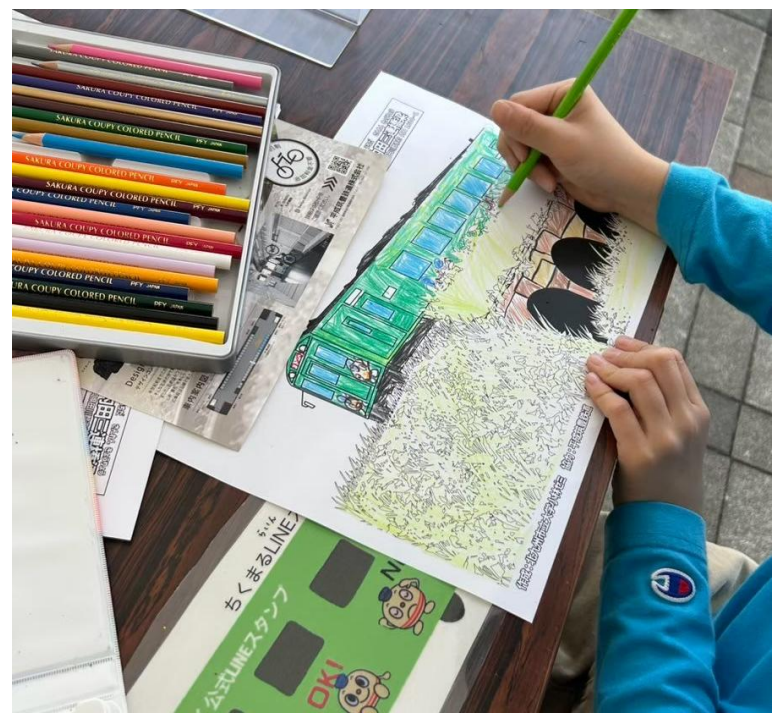
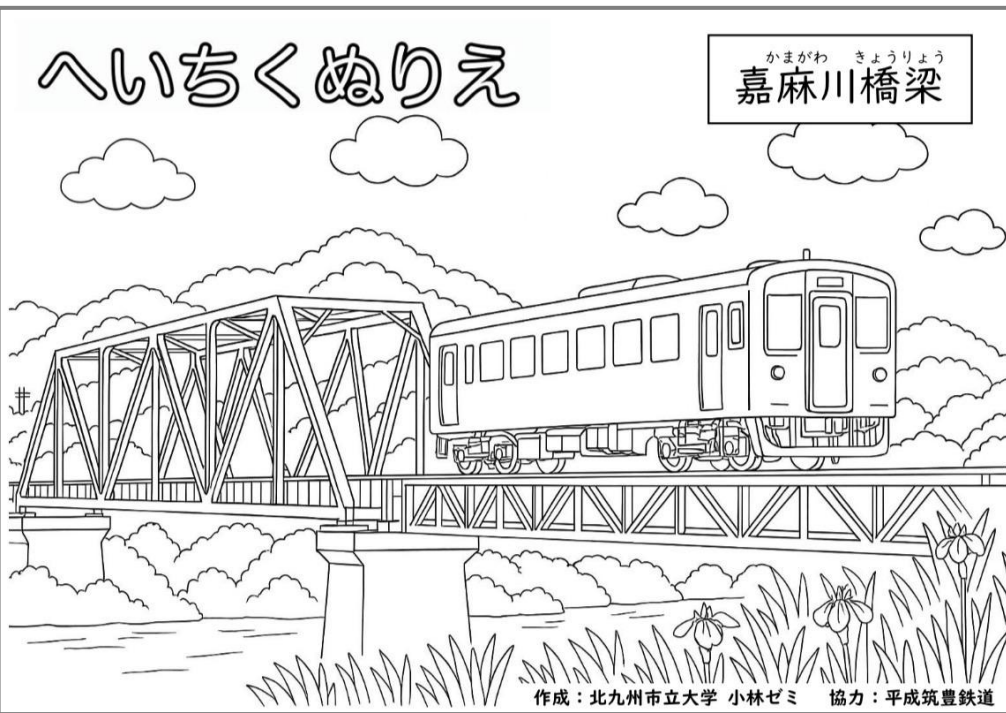
◎リアルな平成筑豊鉄道や沿線地域を落とし込んでいるため、平成筑豊鉄道や沿線地域に興味・関心をもってもらいやすい

実際に列車に乗ったり、沿線地域を訪れたりする行動変容を促すきっかけになる！



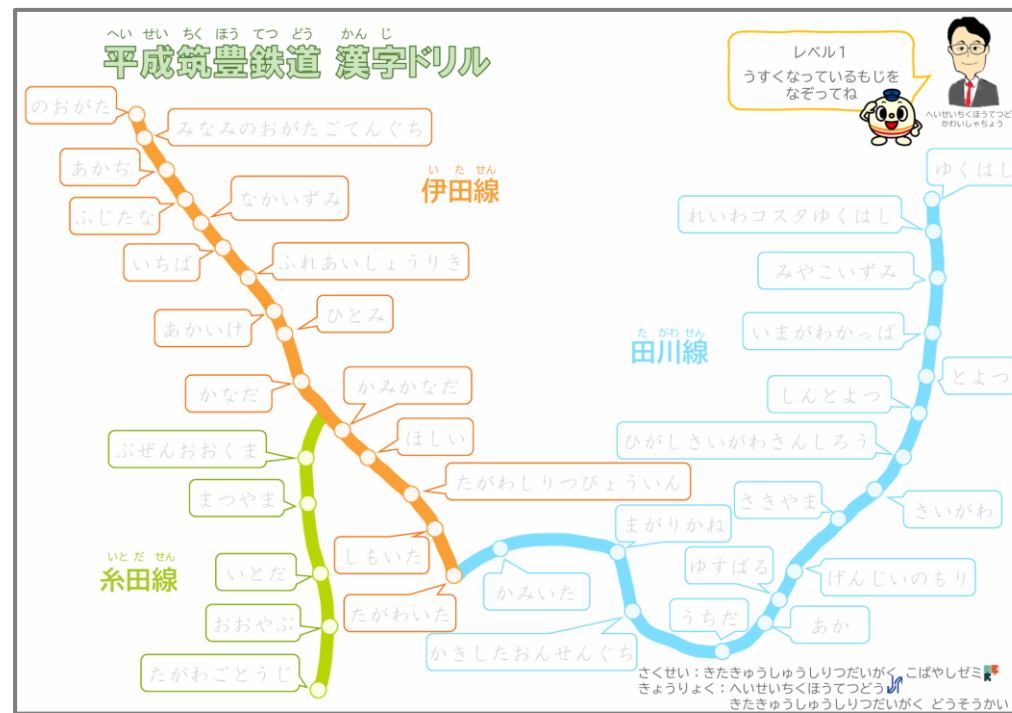
へいちくぬりえ

列車や沿線の風景をモチーフにしたぬりえ。実在する場所を題材にすることで、現地に行ってみたくなるようなきっかけを提供している。地域の歴史や文化を感じられる場所を選定しており、沿線のリアルな風景にこだわっている。ある程度緻密なデザインにすることで、子どもだけでなく大人も楽しむことができる。



へいちく漢字ドリル

平成筑豊鉄道の駅名の読み書きクイズで、8つのレベルに分かれている。小さな子どもから大人まで取り組むことができ、学校教育だけでなく、福祉施設や高齢者施設でも活用可能である。路線図のデザインのため、各駅をたどりながら自然と漢字を学べるだけでなく、地域の特徴や沿線に関する新たな発見にもつながる。



へいちく算数ドリル

平成筑豊鉄道に関する算数のドリルで、小学1～6年生までの問題を用意。ドリル内には列車のイラストや時刻表、駅名、地名、特産品なども盛り込んでおり、問題に取り組む中で自然と平成筑豊鉄道や沿線地域に触れられるデザインとなっている。小学校の授業や放課後児童クラブなど、教育現場への展開も可能である。



とことこおさんぽビンゴ inゆすばる

駅周辺のスポットや何気ない日常の風景をビンゴの要素として作成。イベント実施時だけでなく、駅などに設置することで、訪れた人がいつでも気軽にまちあるきを楽しむことができる。平成筑豊鉄道は1時間に1本程度のダイヤであるため、列車の待ち時間を活用し、1時間程度で歩ける内容にしている。現在は油須原駅バージョンのみ作成しているが、今後は他の駅でも実施を予定しており、汎用性の高さも特徴である。



ゆすばるおさんぽマップ

駅周辺を中心に、沿線地域を歩いてもらうことを目的として作成した。駅利用者や沿線地域の方々に、沿線の「うわさ」「おすすめ」「好きなところ」について A0 ボードへ書き込んでもらう、地域住民・鉄道利用者参加型のマップ。現在は、油須原駅のみマップが完成しており、今後は沿線の主な駅に展開を予定している。



へいちく路線図けんけんぱ

遊びながら自然と駅名や路線の位置関係に親しむことができる路線図のけんけんぱ。小さな子どもにも直感的に楽しんでもらえるよう、駅名を大きく円の外側に配置して、カラフルなデザインで視覚的な工夫を施している。



列車に乗ろう！

平成筑豊鉄道の列車をモチーフとした大型パネルを用意し、窓の部分に、来場者が描いた自分の顔のイラストを貼っていくコンテンツ。実際に列車に乗ってみたいという行動変容につなげることが期待できる。





4. 商品化について

以下のコンテンツは、「お家でもやりたい！」という参加者の声が多く寄せられたことから実際に商品化することとなり、2024.9.29の「へいちくフェスタ」より販売を開始した。その後も各イベントで実際に販売を行い、約60セット売り上げることができた。商品には、遊び方を解説する動画を作成し、QRコードとして掲載。さらに、イベント出展時には遊び方や目的を示したパネルを設置するなど、直感的に理解できる工夫が随所に施されている。これにより、楽しみながら平成筑豊鉄道や沿線地域について学ぶことができ、鉄道の利用促進にもつながる仕組みとなっている。

へいちく駅名神経衰弱

平成筑豊鉄道の実際の駅名看板を再現したカードゲーム。ひらがなが読めるようになった小さな子どもから大人まで、神経衰弱として楽しく遊ぶことができ、遊びながら自然と駅名を覚えることができるため、鉄道や沿線地域への興味・関心を高めるきっかけとなっている。路線ごとに3つに分類し裏面の色を変えることで、色をヒントに遊ぶことや枚数を減らすことで難易度を下げて遊ぶこともできる。また、駅名看板に記載された前後の駅名を手掛かりに路線図通りに並べる遊びもできる。

- ・価格:2,000 円(税込)
- ・対象:6 歳以上
- ・全 36 駅×2枚=計 72 枚
(平成筑豊鉄道の全駅収録)



へいちく列車神経衰弱

平成筑豊鉄道を実際に走っている列車をイラスト化したカードゲーム。カードが大きく、絵柄で楽しめる神経衰弱であるため、文字の読めない小さな子どもから楽しむことができる。白紙のオリジナル号も入れているため、好きなように列車をデザインすることもできる。学生がすべて手描きで作成しており、色味やデザインの再現にこだわっている。個性豊かな平成筑豊鉄道の列車のラッピングが特徴的である。パッケージの帯には駅を模したホームと線路を描いており、線路を走らせる列車遊びもできる。

- ・価格:2,000 円(税込)
- ・対象:3 歳以上
- ・全 9 列車×2枚=計 18 枚
(列車 8 種、オリジナル号 1 種)



5. イベントの実施

鉄道や沿線の魅力発信を行う場として様々なイベントに出展しているよ！



月イチゆすばる駅マルシェ

油須原駅で毎月開催されているイベントで、駅舎内の一角を借りて多くの方にコンテンツを楽しんでもらっている。リピーターや県外からの来場も多い。
(2022年～2025年 毎月第2日曜日)



へいちくフェスタ

金田駅で開催されるイベントで、コンテンツの提供や商品の販売を行っている。以前には、列車を貸し切り、車内でブース展開を行ったこともある。
(2022.10.6/2023.10.1/2024.9.29)



のりものフェスティバル inイオンモール直方

イオンモール内の通路やホールを借りて、ブース出展を行っている。ショッピングモールでの開催のため普段鉄道に触れない人にも立ち寄ってもらえた。
(2022.11.12-13/2023.11.11-12/2024.11.9-10)



赤村トロッコ油須原線イベント

赤駅で開催されるイベント。ブース出展を行い、コンテンツの提供やイベント運営の手伝いも行っている。子どもやファミリー層が多い。
(2023.6.11/10.8/2024.9.8/10.20)



へいちくで遊ぼう！学ぼう！in ふくちのち

福智町図書館の広場を借りてブース出展を行った。限定コンテンツとして「へいちく俳句」も実施し、普段とは違った来場者の反応を得ることができた。
(2023.8.19/9.17)



赤村トロッコ 20 周年記念祭

赤村トロッコ油須原線 20 周年を記念して開催されたイベント。地域との距離が近く、人や地域の温かさに触れることができた。
(2023.10.8)



九州鉄道記念館 春の鉄道マンス

門司港の九州鉄道記念館で開催されたイベントに出展。沿線地域外での出展を通して、普段届かない層に知ってもらえきっかけづくりを行うことができた。
(2025.3.22-23)



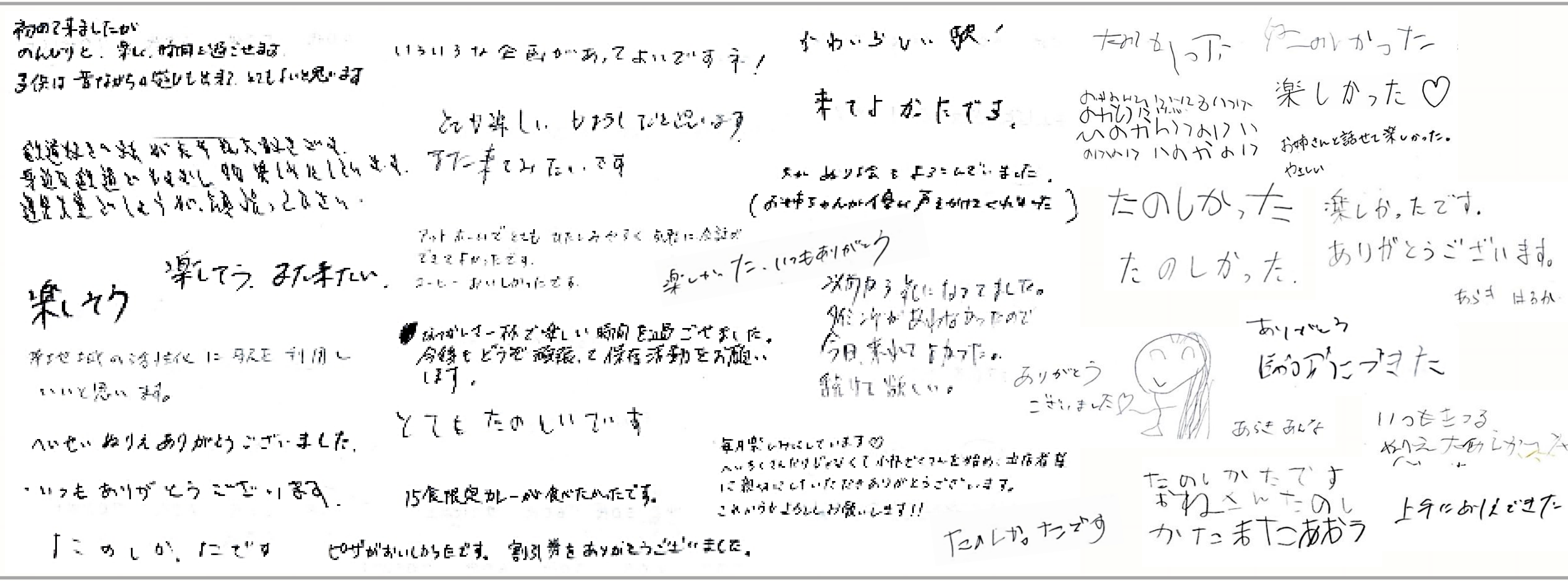
へいちくで遊ぼう！学ぼう！inリブリオ行橋

行橋市の図書館「リブリオ行橋」にて自主イベントを開催。図書館利用者や地域住民に向けて沿線の魅力を発信し、鉄道への関心を高めることができた。
(2025.6.15)

6. 効果

参加者の声

活動の励みとなるような嬉しいメッセージを多くいただくことができた。今後も、参加者のニーズを反映させながら、より良い活動へとアップデートを図っていきたい。



アンケート集計結果 (回答者数49名)

□実施場所: 油須原駅「月イチゆすばる駅マルシェ」
□日時: 2025.4.13

①利用頻度と来場手段の関係性

- Q. 平成筑豊鉄道をどのくらいの頻度で利用していますか？
- Q. 「月イチゆすばる駅マルシェ」にどうやって来場したか？

利用頻度	ほぼ毎日利用	週に1回程度利用	月に数回程度利用	半年に数回程度利用	1年に数回程度利用	ほぼ利用しない 使ったことがない	合計
来場手段							
自動車	0人	0人	0人	2人	1人	25人	28人
平成筑豊鉄道	2人	0人	5人	1人	2人	10人	20人
徒歩	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人
自転車	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
バイク	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	2人	0人	5人	3人	4人	35人	49人

→ 来場手段として、平成筑豊鉄道を「ほぼ利用しない、使ったことがない」と回答した方のうち、10名は「月イチゆすばる駅マルシェ」に平成筑豊鉄道を利用して来場していることが分かる。このようなイベントが公共交通機関の利用を促すきっかけとなっていることが分かった。

②イベント来場者数(推計) ※情報提供: 平成筑豊鉄道株式会社様

- 開催場所: 油須原駅「月イチゆすばる駅マルシェ」
- 平均来場者数: 約70名/回
- 開催回数(小林ゼミ学生参加): 約20回 (2022年-不定期開催、2023年-10回、2024年-10回、2025年-2回)
- 推定来場者数: 約1,400名
- 鉄道利用での来場: 約3~4割

→ 平成筑豊鉄道の調べによると、来場者の約3~4割が鉄道を利用して来場していることがわかり、イベントを通じて鉄道利用への関心を引き出すことができている。また、訪れた方に平成筑豊鉄道に関連する商品やコンテンツ、情報を届けることで、鉄道利用促進と沿線地域の活性化の両面に寄与していると考えられる。

メディア掲載・外部発表実績



①「笑う門には福来一」(ちよっくらじお)

日時: 2023.9.29 11:00-11:30

福岡県の筑豊エリアを中心に地域の情報を届けているラジオ番組。ゲストとして平成筑豊鉄道の河合社長と一緒に出演し、活動内容を紹介した。放送を通して、活動の目的や意義を考え直すきっかけとなった。

② ニュースブリッジ北九州 (NHK)

日時: 2024.5.31放送

北九州・筑豊地域の情報を伝えるニュース番組。小林ゼミの学生も中継で出演し、活動内容やコンテンツの紹介を行った。平成筑豊鉄道の利用促進や沿線地域の活性化に向けた学生の取り組みを、広く発信する貴重な機会となった。



③ 第339回 まちが★すきー (FBS福岡放送)

日時: 2024.10.5放送

赤村を盛り上げたいという思いで、駅や地域の活性化に取り組む人を紹介するという放送内容であった。小林ゼミの活動内容や油須原駅でのイベント出展の様子が取り上げられ、学生ならではの視点で地域の魅力を発信する姿を、沿線地域外の視聴者にも広く届けることができた。



④ 2024年度子ども教育支援建学会議 全体会議・シンポジウム

～子ども教育支援のための建築とまちのプラットフォーム～

(主催: 日本建築学会 子ども教育支援建学会議)

日時: 2024.12.7 (オンライン)

「教育系コンテンツの開発による平成筑豊鉄道沿線の活性化」というタイトルで発表を行った。地域資源を活かした教育的アプローチによる沿線活性化の実践事例として評価された。

私たち小林ゼミは、平成筑豊鉄道や沿線地域に親しみを持ってもらうために、「遊び」や「学び」を通じて多世代に鉄道の魅力を伝え、鉄道の利用促進と沿線地域の活性化を目指した活動を行っている。いつでも・どこでも・誰でも・直感的に楽しめることを意識し、リアルな平成筑豊鉄道や沿線の魅力を取り入れることで、地域とのつながりを感じられるよう工夫している。

イベントでは、日常的に鉄道を利用しない層にも関心を持ってもらい、車から鉄道利用への行動変容が見られたほか、リピーターや遠方からの来場者の増加も確認された。こうした成果から、開発したコンテンツが鉄道への興味を引き出し、行動変容を促していることが分かる。

今後も、地域のさまざまな主体と連携しながら、既存コンテンツの改良や新たなコンテンツの開発、鉄道の魅力を伝える活動をさらに広げていきたい。こうした取り組みを通じて、持続可能な公共交通の実現と地域づくり、さらにモビリティ・マネジメント人材の育成へとつなげていきたいと考えている。



北九州市立大学 地域創生学群 小林ゼミ
各種SNS (Instagram, Facebook, X)

